



学校だより

No.532

令和 4年 2月28日

練馬区立田柄第二小学校

校長 岩井 一雄

教育目標：◎思いやる子供 ・ 元気な子供 ・ 考える子供

木は寸法で組まずに・・・

校長 岩井 一雄

令和3年度も最終の月を迎えました。今年度も保護者・地域の皆様には本校の教育活動にご理解とご協力をいただきましたことに、心から御礼を申し上げます。

本校は来る卒業式で、累計7521名の卒業生を輩出いたします。昭和45（1970）年の春、田柄小学校・練馬小学校・練馬東小学校でお別れ式を済ませ、徒歩で田柄第二小学校に入校した1023名を迎えて開校して以来、52年目の春に卒業を迎える子供たちとなります。この歴史と伝統を胸に、コロナ後の新たな時代を築いていく若者として成長して欲しいと願っています。

「木は寸法で組まずに、癖で組め」これは宮大工など伝統ある木造建築の世界に伝わる教訓です。木は生木（なまき）の間はまっすぐの状態にあります。しかし、時間が経つと水気が抜けてねじ曲がったり、思わぬ方に反り返ったりする癖（くせ）をもっています。それを見極めずに寸法通り、設計図通りに組むと、建て終えてからが大変です。思わぬ方向にひずみが出て、不具合を生じます。不具合だけでは済まず、建物に亀裂が生じたり、バランスが崩れたりすることもあるそうです。それでは千年の長きを耐えうる建築物とはなりません。

匠（たくみ）たちは、先達の知恵と経験に自らの勘働きを研ぎ澄まし、木の性質を見極めていきます。表面からだけでは、木々の性質は分かりません。ですから木が成長した地形や日当たりの状況、土質の成分など加味しながら慎重に判断します。さらに古木の癖や性質・傾向を見定めます。例えば反り返った木は梁やつかえ棒に用いて重みやねじれに耐えられるようにするなど、木々の性質を上手に生かしています。つまり、癖と癖を上手に組み合わせ生かしているのです。

私たちの社会生活は人と人との関係の中で築かれています。人間ですから、癖のない人はいません。誰も自分の考えが一番だと思いがちです。集団ではその癖が顕著に出て、違いと違いがぶつかり合います。家庭では認められていることが集団生活では認められないこともしばしばです。しかし、それを避けてはいつまでたっても成長は見込めません。自分の主張を一方的に言うのではなく、相手の言い分に耳を傾け、受け入れ認めていくことが必要です。時にはぶつかり合うことがあっても、そのことで角（かど）が取れてくるのです。自分と同じタイプの人と付き合うのは楽です。しかし、それだけでは個性は輝きません。違う個性と交わることを通して、互いのもち味を生かす道を見出していく力が育ち、互いの個性が輝きを増すのではないのでしょうか。

子供たちの舞台は世界です。グローバル化の今日、多文化との出会いは避けて通れません。その窓口は、まず人と人との交流から始まります。人と人との関係づくりが大切です。子供たちが自身の個性を大切にすると同時に、相手の個性をも認めていけるよう、私たち大人が子供たちの背中を後押ししていきたいと考えます。

3月の生活目標 「ありがとう」の気持ちを込めてそうじをしよう

早いものでもう3月です。1年間のまとめの月となりました。成長のスピードは人それぞれです。あいさつが元気でできるようになった子。漢字がたくさん書けるようになった子。計算をするのが速くなった子。忘れ物が減った子。様々です。ぜひ、ご家庭でも、子供たちがこの1年で成長したことを考え、たくさん褒めていただけたらと思います。

1年間ご協力ありがとうございました。また、来年度もよろしくお願いいたします。